

仙南地域における県基幹種雄牛「昭光茂」を活用した畜産振興の取組（続報）

大河原家畜保健衛生所
佐藤奈穂、伊藤愛、安達裕美

1 はじめに

仙南地域は、宮城県の南部に位置し、西は山形県、南は福島県に隣接しており、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町の2市7町で構成されている。地域内では多様な産業が展開されており、特に肉用牛は194戸、15,935頭飼育されており、県内有数の主産地を形成している。

平成26年7月には4つの地域和牛改良組合(A、B、C、D)からなる「仙南和牛改良推進組合」が設立された。本組合を中心に、行政、農協、生産者団体が密に連携し、地域一体となって和牛の資質向上と生産基盤の強化に向けた活動を展開している(図1)。

令和4年6月、仙南地域の角田市から、9年ぶりとなる基幹種雄牛「昭光茂」が選抜された。本牛の現場後代検定成績は、枝肉重量が県歴代1位、脂肪交雑が県歴代2位を記録し、全国平均を大きく上回る極めて優れた能力を有している。

この選抜を契機に本牛を活用した地域の畜産業を盛り上げる取組を開始した。前回の報告²⁾では、選抜直後の普及啓発活動として、のぼり旗の掲揚、リーフレットや記念品の配布によるPR活動、産子検査、および若手生産者を中心とした「人づくり」の研修体制構築について述べた。

本報告では、令和6年度以降の継続的な取組として、優良雌牛の地域内保留を軸とした「生産基盤の強化」に焦点を当て、その具体的な活動内容と、市場価格や外部評価に現れた成果について報告する。

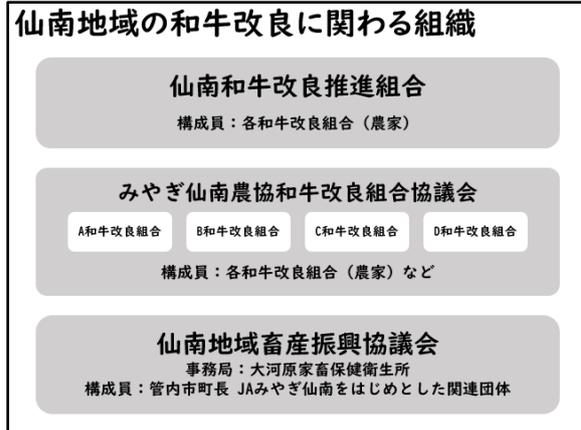


図1 仙南地域の和牛改良に関わる組織

2 令和7年度取組の内容

(1) 優良牛の可視化(産子検査)³⁾

昭光茂産子の優れた資質を市場において客観的に証明し、購買者に対する認知度を高めるため、産子検査を継続的に実施した。検査対象は生後7ヶ月から10ヶ月の「県種雄牛」×「管内の基礎雌牛」雌の産子で、①体測(体高、十字部高、胸囲、腹囲)の4項目を実測)、②発育(発育曲線と体高から「D～A+」の範囲で発育状況を判定)、③栄養度(牛体の6か所の肉付きから痩せ気味～太り気味を判定)、④審査(体積・体均、資質・品位を総合的に評価)の項目を検査した。最終判定として①～④を総合的に評価し、発育および資質が一定の基準(A2級以上)を満たした個体を「優良牛」として認定した。優良牛には、市場上場時に識別が容易となるよう、専用の「昭光茂徽章」を装着し(図2)、購買者には、視覚的に提示することにより購買意欲を促した。



図2 徽章を装着した「昭光茂産子」

(2)生産技術の向上と研修活動

地域全体の飼養管理技術の底上げを図るため仙南地域畜産振興協議会の事務局として下記の2つを運営した。

①地域共進会

地域共進会は、毎年7月頃に県共進会の選考会も兼ねて開催している。令和7年度は22頭の牛が出品され、うち5頭が昭光茂産子であった。本共進会を通じて出品牛の選定や調教に関する指導を行い、生産者相互の技術交流と研鑽を支援し、県共進会に昭光茂産子を6頭出品した(管内個体を1頭追加し、出品)。

②和牛改良技術講演会

本講演会は毎年1回開催しており、令和7年度は64名の管内農家、畜産関係団体が参加した。「黒毛和種における分娩管理の基礎知識」をテーマとしたほか、最新の知見として「昭光茂・孝糸波の現状と活用」および「和牛におけるゲノミック評価」について講演が行われた。参加者アンケートでは、「今後の分娩管理や改良への意欲が高まった」、「来年度も参加したい」など非常に前向きなコメントが多く寄せられた。研修会を通して、個体情報の数値化・可視化に対する理解を深め、科学的根拠に基づいた改良の意欲向上を図ることができた。

(3)「昭光茂産子」関連の和牛改良組合助成事業

生産者の経済的負担を軽減し、昭光茂の血統を地

域に定着させるため、推進組合や「昭光茂」生産地域による各種助成事業が実施された。

①交配生産し子牛登記を完了した際の助成(2万円/頭)②優良雌産子を各地域内で保留・導入した際の助成(12万円/頭)③肥育素牛として導入した際の助成(3万円/頭)である。

助成体系は、産子の生産段階から導入、保留、肥育に至るまで、多面的な支援となっている(図3)。

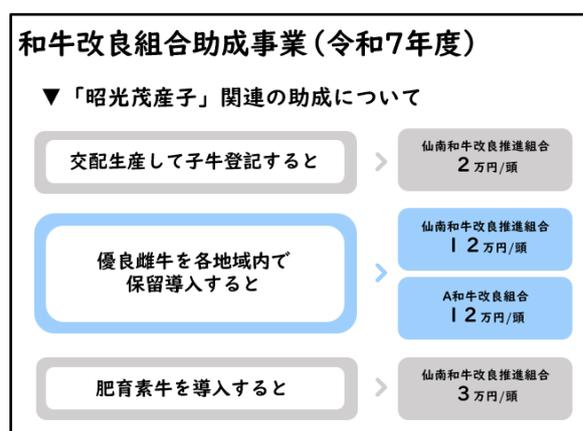


図3 「昭光茂産子」に関する和牛改良組合助成事業

3 取組の結果と考察

(1)子牛市場における成績

産子検査および徽章装着による「見える化」の効果を検証するため、令和6年1月から令和7年12月までの子牛市場成績を調査した。徽章装着牛の平均取引価格は597,457円(21頭)。同時期の県全体の昭光茂産子(雌)の平均価格は536,162円(131頭)、県全体の全血統(雌)の平均価格は542,247円(12,612頭)であった。徽章装着牛は県内の同血統平均と比較して約6万円高く取引された。また、日齢単価においても県内の同血統平均を14%上回る数値を記録した。これは、産子検査による評価が市場価値と合致していることを示しており、この「見える化」の取組が昭光茂産子の資質を広く認知させる一助になっていると考える。

(2) 生産基盤の強化(保留頭数の推移)

地域の将来を担う繁殖雌牛の確保状況について、管内における昭光茂産子の保留頭数を集計した。令和5年度末時点での保留頭数は8頭に留まっていたが、令和6年度には14頭が増加、令和7年度にはさらに11頭が加わり、累計で33頭まで増加した。保留頭数の増加は、地域内での産子の斉一性向上や市場供給力の安定化に寄与し、持続可能な肉用牛生産の基盤が強化されていることを示している。

(3) 共進会での評価と枝肉成績による能力の実証

令和7年度宮城県総合畜産共進会において、管内から出品された昭光茂産子は第1区若雌の1で最優秀賞4席を受賞したほか(図4)、第5区父系群において優秀賞1席という成績を収めた。審査員からは「雌牛らしい品位を備え、体上線の平直さや強さにおいて非常に優れた能力を有しており、次世代の宮城の和牛を象徴する資質である」との高い評価を得た。加えて、管外地域から第2区若雌の2で昭光茂産子の出品もあり、高能力の種雄牛として昭光茂が広く認知された。



図4 令和7年度県共進会出品牛「昭光茂産子」

令和7年9月から12月に上場された昭光茂産子の枝肉成績(去勢17頭平均値)は、枝肉重量583.6kg、BMSナンバー9.9であり、現場後代検定(去勢10頭平均値)と遜色のない好成績であった(図5)。これらのことから、昭光茂は高い産肉能力を有しているこ

とが実際の生産現場においても実証された。

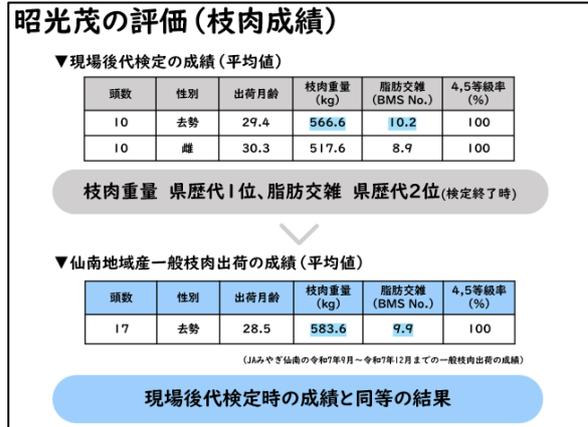


図5 昭光茂産子の枝肉成績

4 おわりに

昭光茂を核とした「見える化」「技術向上」「経済的支援」の三位一体の取組により、市場評価の獲得、生産基盤の強化という成果を得ることができた。地域全体に昭光茂を活用した改良の機運が定着した意義は大きく、令和9年に開催される「第13回全国和牛能力共進会」への出品と上位入賞を目指す土台作りができたと考える。今後は、家保として最新のゲノミック評価を活用した選抜、技術的な支援を強化するとともに、関係機関との連携を一層深め、引き続き仙南地域の肉用牛振興及び生産基盤強化に一層尽力したい。

参考文献

- 1) 仙南地域の概要(令和7年度):大河原地方振興事務所
- 2) 仙南地域における県基幹種雄牛「昭光茂」を活用した畜産振興の取組(令和5年度宮城県家畜保健衛生業績発表会):大河原家畜保健衛生所
- 3) 黒毛和種正常曲線(平成16年4月):社団法人全国和牛登録協会